

第105号

研究所報

三好教育研究所

令和6(2024)年度

ごあいさつ

『研究所報第105号』の発刊にあたり、ごあいさつを申し上げます。

三好教育研究所では、令和4年度から6年度にかけて「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く『人財』を育む教育活動」を研究主題に、三好郡市内各園各校のご協力をいただきながら、研究・研修活動を行ってまいりました。その研究の集大成と言える本年度の研究発表会では、樅生小学校から「ふるさと西祖谷に夢や誇りをもち、未来の創り手となる子どもの育成～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営の深化・充実をめざして～」というテーマで、三好教育研究所から「主体的に運動する子どもの育成～『防災体力』を意識した体力づくりを通して～」というテーマでの発表がありました。一方は時代を超えて変わらない価値のあるもの、もう一方は時代の変化に対応した新たな視点であり、今後の教育の在り方の基本的な方向、「不易」と「流行」の研究実践報告となりました。その後の講演会では、接遇のプロであるマナーセンス代表の湯佐弘子先生をお招きして、「ペップトークで自分と子供達の未来を輝かせよう」と題したご講演を拝聴し研修を深めました。ペップトークとは、今シーズン50-50の偉業を成し遂げたドジャースの大谷翔平選手が、2023WBC決勝戦開始前に円陣を組んで仲間を鼓舞した「憧れるのをやめましょう・・・」という声出しなど、相手の意欲を引き出す言葉掛けのことです。子どもたちにどんな言葉掛けをしたらいいのか、学校現場に即した場面での言葉掛けを肯定形に変換する演習を行いながらの講演は、今後の指導に参考になると参加した先生方からの感想を多数いただきました。研究発表会開催にあたりご協力いただいた三好教育会役員や研究発表会協力委員のみなさん、大変お世話になりました。

さて、本研究所では、今年度も研究員による研究はもちろん、各種調査、へき地・複式部会や情報部会をはじめとする各部会の研究推進にも協力しています。また、従来からの中堅教員・管理職に対する学校運営研修、徳公教組とタイアップした臨時教員の採用研修に加えて、これらの世代の狭間に位置する若手教職員層の研修（三セカフェ）を新たに実施しました。さらに、三好市適応指導教室（そよかぜ学級）の支援もさせていただくようになりました。その他、教育機器の貸し出しや拡大印刷等のお世話、各校行事予定の一括取りまとめも行っております。微力ではありますが、各園各校の教育活動や次代の三好教育を担う教職員の人材育成に役立つよう、様々な事業を展開しています。

今年度から研究割当てを削減し、『研究所報』には4名の先生方から研究実践のご報告をいただきました。おまとめいただいた貴重な研究成果は、校種を超えて、先生方の教育実践に役立つ内容になっております。ぜひご覧いただき、参考にしていただければ幸いです。ご執筆いただいた先生方、本当にありがとうございました。

給特法の改正論議が世間を賑わせていますが、現場では、その改正案が現場にとっての最善策であることを期待しつつ、まずは一つ一つ業務の改善を模索しながら日々奮闘しておられる先生方に敬意を表します。本研究所におきましては、先生方の取組の一助を担えるように鋭意努力していきます。今後ともご指導とご協力をいただけますよう、よろしく願いいたします。

令和7年3月

三好教育研究所 所長 高岡 和恵

目 次

あいさつ

三好教育研究所 所長 高岡 和恵

—— 委嘱研究員研究 ——

- 幼児の健康な心や体を育む保育をめざして…………… |
～運動遊びを通した三好市内幼稚園の取組～
三好市教育委員会 主任教諭 中川 瑛子
- 郷土愛の育成と教科等の内容理解を目的とした
教科等横断的な学習の単元開発と実践と評価 …… 6
三庄小学校 教諭 中妻 道人
- 豊かな心で、自他のよさや価値に気付き、よりよく生きようとする児童の育成……………12
～特別活動と道徳科の響き合いを目指した西井川小メゾットによる道徳教育の推進～
西井川小学校 教諭 福井 裕佳
- 伝統と革新～ふるさと東祖谷をG I G Aで発信しよう！～……………17
東祖谷中学校 教諭 久保 拓史
- 令和6年度 教育研修・研究事業報告 ……22
- 歴代委嘱研究員一覧（平成元年～） ……24

研究主題

幼児の健康な心や体を育む保育をめざして ～運動遊びを通した三好市内幼稚園の取組～

三好市教育委員会 主任教諭 中川 瑛子

1 はじめに

健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に安全な環境のもとで、心と体を十分に働かせて生活することによって培われていくものである。そのためには、幼児が教師や他の幼児、周りの人たちとの触れ合いの中で楽しい生活を送り、体を動かす心地よさを味わうことを通じて自ら進んで体を動かそうとする意欲を育てることが大切である。

そして、幼児期は、身体諸機能が著しく発達する時期であることから、この時期に多様な経験をすることが重要となってくる。しかし、ネット環境が整い、スマホやタブレットなどのデジタルデバイスが身近にある現代では、バランス能力や柔軟性が低下した運動器症候群「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」が幼児たちの中で増加傾向にあるといわれている。

三好市の幼稚園においても「ロコモ」が見られることから、筋力・柔軟性・バランス感覚・持久力・瞬発力など様々な身体能力を高められる「運動遊び」を日常の保育に取り入れることにより、健康な心や体をつくることができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の目的




幼児が楽しく体を動かしながら自然と運動能力が身に付くよう、各園の環境や幼児の現状を把握して課題を共有し、発達に応じた環境構成や援助の在り方について考える。

3 研究の概要

(1) 研究の方法

- 令和5年度に『「運動あそび」～運動の大切さを見直そう～』をテーマに講師（理学療法士）を招いての職員研修を1回、3園合同での講師による運動遊び（交流保育）を3回開催した。運動遊びに取り組む前と継続して取り組んだ後のロコモチェック（図1参照）を各園で行い、身体的な発達が促されたかどうかを比較した。
- 令和6年度は、幼児の実態や課題などを講師と共有し、各園での巡回指導を行っている。令和6年7月と令和7年1月にロコモチェックを実施した。
- 3園合同での交流保育と各園での取組の事例、ロコモチェックの比較から、幼児の健康な心や体を育むための環境構成や教師の在り方について考える。

図1 ロコモチェック（運動器検診）

①片脚立ち	②しゃがみ込み	③肩拳上	④体前屈
			
5秒以上できない/ふらつく	踵が上がる/うしろに転ぶ	上肢が垂直に上がらない	指が床につかない

(2) 研究の視点

- ・ 幼児が楽しく体を動かして遊ぶ中で、柔軟性や自分の体をコントロールする力を育むための工夫や環境構成の在り方を探る。
- ・ 幼児自らが意欲的に運動遊びに取り組み、その気持ちよさや充実感を味わうための教師の援助や関わりについて考える。

4 園児の運動能力実態調査（ロコモチェック）

運動遊びに取り組む前は、5秒以上片脚立ちができない幼児が18名いたが、継続して運動遊びに取り組んだ後には7名に減っていた。肩拳上においては全園児ができるようになった。

令和5年度実施のロコモチェック 対象児 46名（4歳児：14名 5歳児：32名）

	令和5年10月				→	令和6年2月			
	①	②	③	④		①	②	③	④
A園	3名	1名	0名	4名		1名	0名	0名	3名
B園	10名	4名	4名	2名		4名	3名	0名	3名
C園	5名	2名	0名	0名		2名	0名	0名	2名
計	18名	7名	4名	6名		7名	3名	0名	8名

※①～④は図1参照。各人数は課題が達成できなかった幼児の人数。

5 研究の実践と省察

(1) 令和5年度3園合同交流保育「運動遊び」～運動の大切さを見直そう～

月 日	実 施 内 容	場 所
10月 4日	交流保育事前打ち合わせ ・ 幼児の発達、成長、課題について ・ 「運動遊び」の目的及び内容について	池田幼稚園リズム室
10月20日	第1回三好市幼稚園交流保育 移動系動作のトレーニング ・ 基本動作（バランス、歩く、止まる） ・ 道具を使つての動作（ジャンプ、バランス）	池田幼稚園リズム室
11月27日	第2回三好市幼稚園交流保育 移動系動作のトレーニング ・ 基本動作（バランス、横の移動、お尻歩き） ・ 道具を使つての動作（前後左右のジャンプ）	池田総合体育館サブアリーナ
2月 8日	第3回三好市幼稚園交流保育 応用競技 ・ 個人競争（走る、横の移動、うしろ歩き） ・ グループ競技（手つなぎおに、転がしドッジ）	池田小学校体育館

(2) 運動遊びのコーナーづくり（A 幼稚園の取組）

幼児たちは体を動かして遊ぶことが好きであり、運動遊びも好んでするが、両脚跳びや片脚ケンケンが難しく、靴や上靴の着脱時にも座って履く、片脚立ちをするとふらつくなど、バランス感覚に弱さが見られた。また、園庭で走っていてもよく転んだり、座っていてもすぐに肘をついたりするなど、姿勢の保持が難しく、様々な活動時に体幹の弱さが目立つ。

このような実態から、体幹やバランス感覚を養うため、室内ではミニハードルやラバーリングなどを使ってのサーキット遊び、だるまさんがころんだや竹馬・ジャングルジムなど、個人で挑戦したり、友達と楽しんだりできる遊びを取り入れ、「リズムに合わせてジャンプ・止まる」の動きを遊びの中で取り入れている。また、園生活の中で、ちょっとした隙間時間や保育室やリズム室から移動の途中に体を使った動きを取り入れるなど、園内環境の工夫に取り組んでおり、トイレ前には「やってみよう！片脚立ち5秒」コーナーを設け、上靴を履き替える際、バランスをとるチャレンジも行っている。様々な運動遊びを行っているが、経験や体力によって一人一人の差があるため、なかなか思いどおりにい



かない時もあり、途中で投げ出したり、できない苛立ちを友達にぶついたりする幼児もいた。しかし、教師や友達に励まされながら根気よくチャレンジし、少しずつ意欲的に取り組んでいる。

<省察>

- 様々な動きや動作ができるようになると遊びも楽しくなり、次の課題に向かって挑戦しようとする気持ちが高まってくる。できないことに気持ちが苛立つ幼児の姿もあったが、教師や友達に励まされたり認めてもらったりしながら「最後まで頑張ろう」「できると楽しい」という思いが強くなり、友達と一緒に頑張れるという気持ちも育ってきている。また、できることが増えると自信がつき、次のステップに挑戦したり、友達にも優しく接したりすることができるようになってきている。
- ロコモチェックの結果から本園の幼児の現状を把握し、職員間でも協議した。幼児の実態から、わかりやすい動きで無理なく体幹を鍛えたり、楽しんでバランス感覚を養ったりできるような環境構成や遊びを取り入れるようにした。様々な動きを取り入れていったことで、少しずつ体幹が鍛えられつつある。また、10月には、講師を招いての運動遊びを実施した。今後も、それぞれの遊びを個々に合わせてレベルアップすることで、幼児の「楽しい」「やりたい」という気持ちを引き出すことができるような環境構成や援助を心がけていきたい。

(3) 家庭との連携 (B 幼稚園の取組)

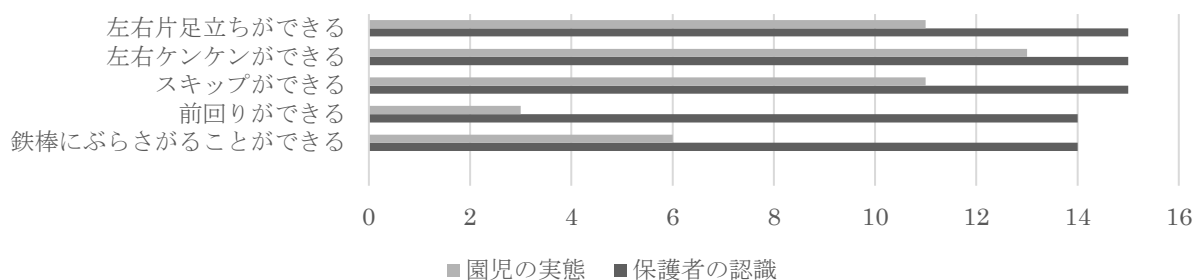
遊びや生活の中で、体や手先の不器用さ、集中できる時間の短さ、言葉の不明瞭さなどが比較的多くみられる。そこで、家庭と連携を図りながら体づくりに取り組んではどうかと考え、参観日に児童デイサービスの管理者でもあり多くの幼児を診ている講師（理学療法士）を招いて親子で講演会に参加してもらった。

講演会では、親子でペアになり、講師から動作の意味や効果を説明してもらいながら、様々な動きを体験した。「片脚立ち」「ハイハイ」「跳ぶ」「走る」「つかまる」「持ち上げる」「止まる」などの動きを親子で触れ合ったり、競い合ったりしながら楽しんでいた。講師の方からは、腕の力、手の力の弱さが目立っていることを知らされた。講演会終了後、講師に相談



できる時間を設けると、保護者からは「落ち着きがない」「食事中よい姿勢で座ることができない」などの相談が寄せられていた。床を手のひら全部で捉える「手押し車」や、ろっ骨を開かせる運動「ぶくぶく遊び」などを勧められたり、保護者や保育者のちょっとしたアシストや環境の工夫で生活の中から体が出来上がっていくことを教えられたりした。

幼児の実態調査アンケート（人）



<省察>

- 事前に幼児の運動機能についてのアンケートを行った結果、それぞれの項目にほとんどの保護者が「できる」と回答していた。しかし、園で実態調査を行ったところ、基本動作が取得できていない幼児が多く見られた。このことから、保護者の認識と幼児の実態には大きなずれがあることが分かり、まずは保護者に自分の子どもの身体状態について正しい実態を把握してもらうことが課題だと感じた。
- 講演会后、直接子どもの身体状態を知ったことにより、アドバイスもらった通り親子で実践をし、家庭でも楽しい時間を過ごしていることを保護者との会話の中から聞くことができた。また、参観という形で保護者に対して運動遊びの大切さについて学んでもらう機会を作ったことで、保護者に一人一人の状態をより具体的に伝える機会が増えた。そして、課題を共有することで、幼児への対応が一本化できたことは幼児の成長にとって大きなメリットだと感じた。今後も、家庭と連携を図りながら様々な方面からアプローチを行い、一人一人が充実した生活が送れるよう保育を実践していきたい。
- 1学期の後半には、ドッジボールや鬼ごっこなどの集団遊びを好み、長い時間集中して遊ぶようになっている。2学期には運動会に向け力いっぱい走ったり、手や足をしっかりと伸ばしてリズム体操に参加したりしている姿が見られるようになってきた。自分の体がしっかりと動かせるようになったことで様々な遊びが充実し、生活の場面でも自分でやり遂げようと挑戦する姿が増えており、体と心はつながっていることを実感している。これからも、幼児たちが遊びの中で多様な動きを経験できるよう工夫していきたい。

(4) 講師による巡回指導（C 幼稚園の取組）

体を動かして遊ぶことが好きな反面、走ると転んでしまう幼児や手足の力や体幹が極端に弱い幼児もあり、体をコントロールする力が十分に育っていない姿が見られる。そこで、生活の中で、一人一人の発達に合わせた指導の在り方や遊びの場づくりを課題として巡回指導を受けることにした。巡回指導当日、指導に入る前に幼児の遊んでいる姿や部屋の広さ、床の硬さ、普段使っている遊具など保育室の環境を講師に確認してもらう。その後、講師から、「座る」「寝ころぶ」「起きる」「走る」「はねる」「跳ぶ」「這う」など、自分の体を前後左右上下に動かす遊びを教してもらった。また、友達とペアになっての遊びや保育室にある風船やカラーリングを使った遊びをしながら、力いっぱい体を動かして遊んだ。講師の動きをよく見て真似たり、少し難しい動きにも挑戦したりしな



がら運動遊びを楽しんだ。「やったー！」と声をあげながら自分でできたことを喜ぶ姿は、友達と一緒に体を動かすことの嬉しさに溢れていた。

遊びの後、講師と担任とで、園での課題や幼児の運動機能に関する協議の時間をもち、幼児の発達特性に応じた指導についてのアドバイスや普段の保育の中でできる運動遊びについてフィードバックしてもらった。

巡回指導後、毎日の保育の中で、給食前や保育の隙間時間に、友達のお腹の下を通るトンネルくぐり、吊るした風船にタッチをする風船ジャンプなどの運動遊びを取り入れ、保育者が以前以上に意識をしてみんなで体を動かす機会をもつようにした。幼児たちも運動遊びが始まると「やってみたい！」と積極的に様々な動きに挑戦する意欲が高まっている。

<省察>

- 巡回相談を通して、専門的な講師の方に来園してもらったことで、園の様子や幼児の実態に合わせた運動遊びについて、具体的な提案をしてもらうよい機会になった。指導を受けたことから、一人一人の発達に応じて遊びを工夫したり、隙間時間に積極的に運動遊びを取り入れたりするなど、保育者の意識も変わってきた。また、講師と、園の実態や課題を共有したことで、今後、取り組んでいく上での相談窓口ができたことを心強く感じた。
- 幼児たちは、一緒に活動する中で、友達の姿に刺激を受けたり、真似たり、苦手なことにも挑戦したりしている。それを繰り返すことで、次第にできることが増え、周りから認められて自信をもち、さらに意欲的に遊びに取り組もうとするようになった。「自分ではできる」という感覚（有能感）をもてたことで、普段の生活の中でも、友達のしている遊びに積極的に参加したり、難しいことにも諦めず挑戦したりする幼児が増えてきた。遊びや生活により意欲的に取り組もうとする姿が見られ、体の発達が心の発達も促していることを感じた。運動遊びを楽しみながら、成功体験を積み重ねるための環境の工夫や、それぞれの発達特性に合った援助をしていくことが幼児の有能感を育てることにつながるのだろう。幼児が思わず体を動かしたくなるような環境構成や楽しく遊ぶことのできる雰囲気づくりや十分な時間の確保をしながら、体を動かす心地よさや充実感を味わうことができるように援助していきたい。

6 おわりに

幼児の運動機能、体力向上にかかわって、様々な取組を市内3園の幼稚園で実践した。今回の研究では、教師が幼児一人一人の姿を把握することで、明確な課題やねらいをもったうえで必要な援助や環境構成の工夫、家庭との連携が行えたのではないかと思う。

令和5年度に実施したロコモチェックの結果においては、日常の保育に継続的に運動遊びを取り入れたことで、多くの幼児に運動機能の改善が見られた。このことから、健康な心や体づくりを考えるうえで、実態調査の数値だけではなく、取組の内容、目的が幼児の意欲に結びついているかということがいかに大切であるかを再確認した。

また、講師による巡回指導の活用をとおして、幼児期に身に付けたい動きやダイナミックに遊ぶための指導方法を教師自身が学ぶことができた。そのことから、園で活発に体を動かす機会を意図的に増やすことで、幼児たちの「やってみたい」や「できると楽しい」という前向きな思考につながったのではないかと感じた。

本研究の成果を活かし、今後の保育で継続して実践していき、幼児の健康な心と体の育成につなげていきたい。

郷土愛の育成と教科等の内容理解を目的とした教科等横断的な学習の単元開発と実践と評価

三庄小学校 教諭 中妻道人

1 課題設定の理由

郷土愛は、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の「道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容」の観点Cに次のように記載されている。(低学年) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。(中学年) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。(高学年) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。とされ、道徳科を要し学校の教育活動全体を通じて郷土愛を育むこととされている。本研究は、この観点Cで示された郷土愛が、これからの未来においてより重要になるであろうと考え、論を進めることとする。

2030年の未来を想定し、「生きる力」を具体化した平成28年12月の中央教育審議会答申には、『時代の変化という「流行」の中で未来を切り拓いていくための力の基盤は、学校教育における「不易」たるものの中で生まれる。』とある。この「不易」は、教育基本法第1章(教育の目的)である「人格の完成」と「平和的で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」であると読み取れる。本研究では、この「平和的で民主的な国家及び社会の形成者として」ふさわしい人格を完成するため、郷土愛は欠かせないものだと考える。

また、平成29年7月告示の小学校学習指導要領総則編の現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力(第1章第2の2の(2))にあるように、「豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していく」ことが求められているが、この「豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の原動力になるのが郷土愛だと考える。

よって、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として例示されている次の力

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・健康・安全・食に関する力・主権者として求められる力・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

は、郷土愛を育成しながら教科等横断的な視点で身に付けることで、その力はより発揮されやすくなると考えられる。

以上により、研究課題

郷土愛の育成と教科等の内容理解を目的とした教科等横断的な学習の単元開発と実践と評価を設定した。

2 先行研究

(1) 郷土愛の必要性について

先述した平和的で民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい人格を完成するため、郷土愛は欠かせないと考えられる根拠について先行研究から考える。

人格の完成にむけて、アイデンティティ(自己同一性)の確立は欠かせない。(大野2020)(原田2011)から、自分を支えてくれる周囲の人との関係を大切に育むことで得られるアイデンティティの感覚「自覚、自信、自尊心、責任感、使命感、生きがい」は、家族や身近な人への愛着を生むことになり、家族や身近な人への愛着は、後のアイデンティティの再認識により、郷土への愛着となると考えられること、(大谷2013)(原田2011)から、自分にとって意味づけされた愛着のある場所は、人を懐かしむことを支持し発達させることで、愛郷心(郷土愛)はより涵養さ

れること、(尾関ら 2009) から、地域への愛着等から向社会的行動を促すことが確認された。郷土愛はアイデンティティの高まりと一体となり生まれ、よりよい社会づくりへの参画の要素と成り得ることが分かった。

このように、郷土愛と人格の形成や社会性は密接に関係している。だから学校教育において郷土愛の育成が求められている。先述した現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として例示されている健康の課題、災害の課題、食の課題、主権者としての課題、伝統文化と多様性の課題、地域創生の課題等は、郷土愛を育みながらその解決に取り組むことで、人格の完成や平和的で民主的な国家及び社会の形成者である国民の育成に寄与できると考えられる。

(2) 地域学習の問題点と総合的な学習の時間の課題

五十嵐 (2006) は、郷土愛を育んでいなかったこれまでの地域学習についてまとめ、従来の「地域を学習する (内容としての地域学習)」「地域で学習する (教材としての地域学習)」をねらった地域学習ではなく、「地域でしかできない学習」を実践した。中学生を対象にした社会科における「郷土愛を育てる地域学習の工夫」において、授業ごとに書かせた感想から、「郷土への愛着」や「郷土に対する誇り」は着実に定着しつつあるとしながら、次のような課題を述べている。

- ・時間の制約もあり、主体性を発揮させた学習が十分保証できなかった。
- ・より高位の学習にステップアップするチャンスがあったのに、それを下支えする「基礎・基本」が欠落していてさらなる追究に及ばなかった。

本研究は、(五十嵐 2006) の実践を参考としつつ、その課題である「時間の制約」や学習を下支えする「基礎・基本」の欠落といった課題を、以下に示す (岡田ら 2019) の教科等横断的なフレームワークでの解決を試みる。

(岡田ら 2019) から一部抜粋

知識に関しては教科教育の時間枠で、主体的な態度の育成は、総合的な学習の時間や特別活動などの時間枠で、それぞれの特性を生かして実施されることが望ましい。教科において「もともとあるもの」を活用して教科の間を編んでいくような学習カリキュラムは、教師の負担を軽減することにもなる。

引地ら (2005) は、地域に対する愛情の定義として Hidaigo et al の「人々の特定の地域との間の情緒的な絆や繋がり」を取り上げ、地域に対する愛着形成の心理過程を検討し以下の知見を示している。

地域への愛着は、地域への肯定的な印象から形成されることが分かった。この地域への肯定的な印象は「土地への肯定的な印象」「集団への肯定的な印象」「文化への肯定的な印象」に分けることができ、この中で「集団への肯定的な印象」が愛着形成に最も大きな影響を与えている。

このことから、地域にあふれる人・もの・こと、との肯定的な関わりが地域への肯定的な印象を生むといえ、中でも地域の人々との肯定的な関わりが、地域への愛着につながる要であると考えられる。そのような学びを教科等横断的に構成することで郷土愛が育まれると考えられる。

3 本研究の目的

本研究では、学習者が地域の「人・もの・こと」と主体的に繋がれるような教科等横断的な単元の開発を行い、その実践と評価を通して、郷土の知識と共に郷土への愛着を高められたのかを明らかにする。

4 仮説

教科等の知識や技能を生かして郷土の「人・もの・こと」と関わる課題解決学習を行えば、郷土の知識と共に郷土愛も育まれるであろう。

仮説の検証方法

- ・地域と関われる内容や知識の洗い出し
- ・地域の「人・もの・こと」と関われる学習課題の設定
- ・学び方や、学習の現在地の分かる工夫
- ・目的がより明確になり、探求のサイクルを回す工夫

5 アセスメント

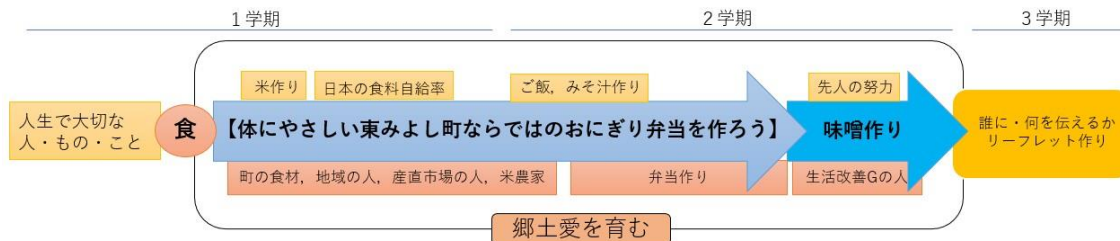
児童の感想と共に、引地ら（2005）で使用された地域への愛着に関する22項目の質問を、単元開始前と単元終了後に行い、地域への愛着は高まったのかについて数値での評価も行う。

6 実践内容の報告

〔5年生〕

課題「体にやさしい東みよし町ならではの おにぎり弁当をつくろう」は、84時間（総合49、社会12、国語11、家庭11、道徳1）実施した。

資料1 単元構想図



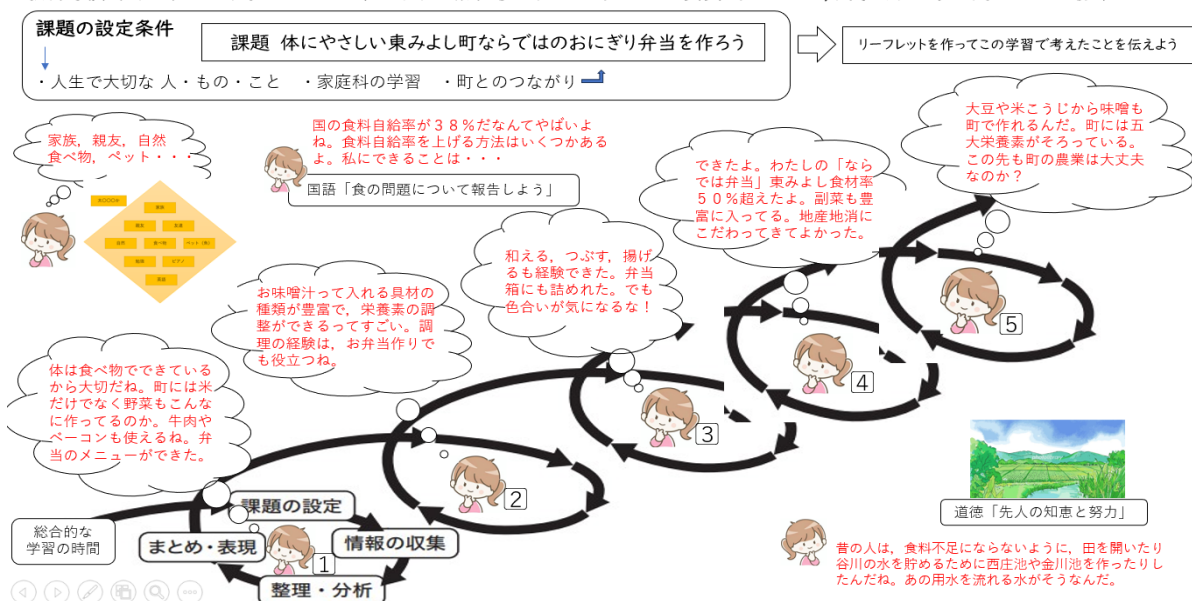
資料2 単元計画

5年生 郷土愛を育む教科横断的な単元学習 単元名『体にやさしい東みよし町ならではの おにぎり弁当をつくろう』単元計画（全84時間）

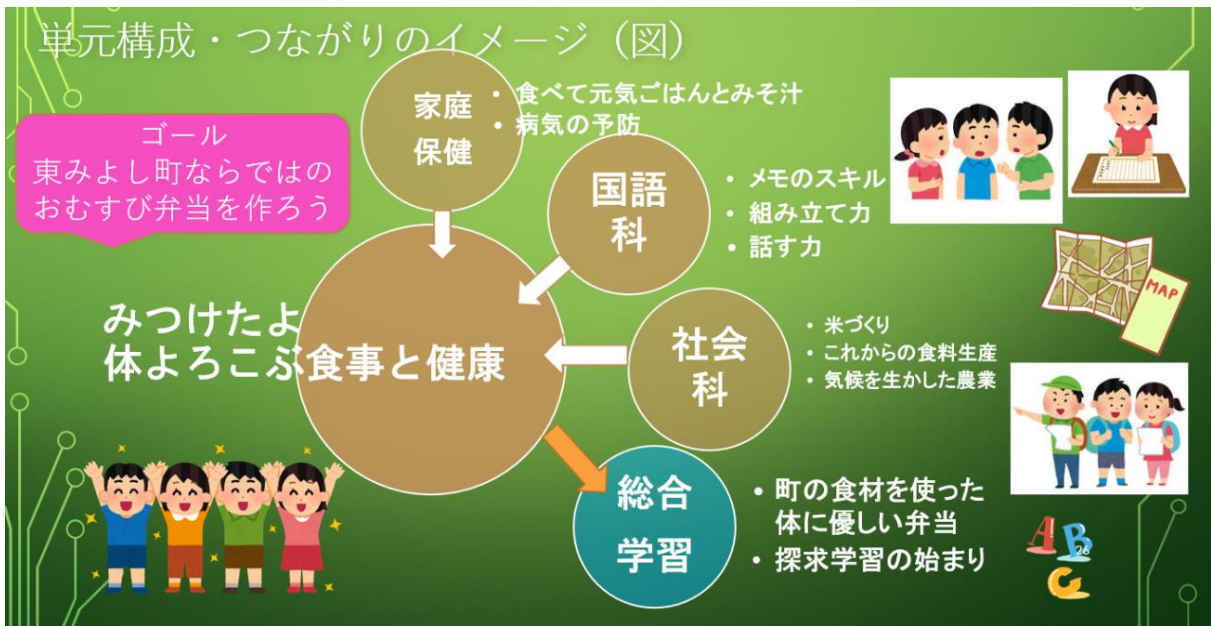
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時間	
国語			食の問題について報告しよう(2)		知りたいことも聞き出そう(食料を物味にして読もう)					食の問題について報告しよう(5)		11	
社会			「食料自給率」に関する資料と関係性を調べたりして、地域の食料自給率に果たす役割を考え、適切に表現しよう(郷・村・美)	暮らしを支える食料生産(4)	米作りのさかんな地域(8)							12	
総合	体にやさしい東みよし町ならではの おにぎり弁当をつくろう (84時間)												
総合	日本の低食料自給率を知ること、町の豊かな農産環境に気づき、食料の大切さに気づく力(知識・技能、思考・判断)			五大栄養素の知識を基に、みそ汁に入れる具や栄養バランスを考えた弁当のメニューを考える力(知識・技能、思考・判断、表現)			地域で採れる旬の食材を知り、それらを生かして、栄養バランスを考えた料理を作れる力(知識・技能)						49
道徳					先人が残してくれた農業インフラや、伝統的な食文化の恩恵を感じ、気づきを他の人に伝える力(表現、学びに向かう力・人間性)							1	
家庭												11	

資料3 単元での児童の思考イメージ

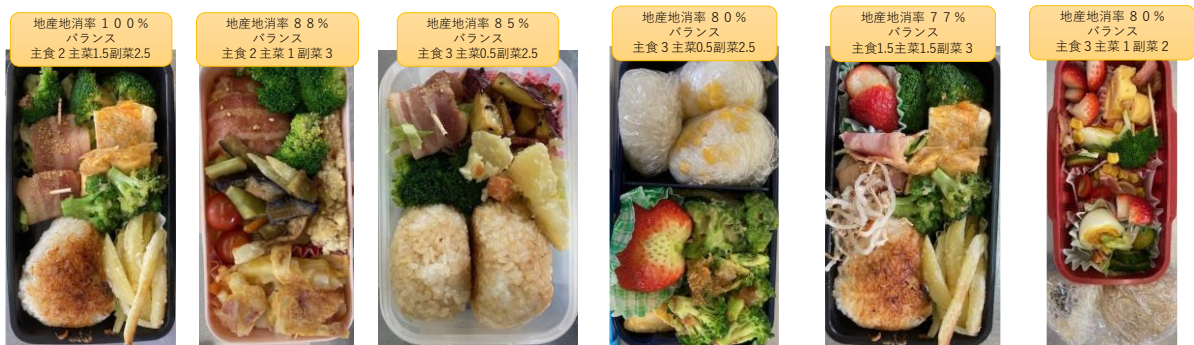
教科等横断的な単元 思考イメージ図（現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力のうち、健康・安全・食に関する力を選択）



資料4 授業用スライド



資料5 児童の作った弁当の一部 (地産地消率と栄養バランス)



資料6 児童の作ったリーフレットのの一部

二つ目は田んぼや畑を大切に使うってほしいということです。味噌づくり体験のとき昔の人たちがいちから一生懸命作った畑や田んぼが捨てられて草がたくさん生えている、ということを知りました。だから池を作って畑を作ったのにそれを簡単に捨てる人がいるなんてとても昔の人に失礼だと思いました。だから、もしわたしが農家になったら田畑を大切にしようと思います。

田畑を捨てることは昔の人たちに失礼

東みよし町にはたくさんの優しい人がいる

田畑を大切にしたい

東みよし町を好きになった

総合でならでは弁当を作るという勉強を通して、料理の知識や地産地消、食料自給率のことをよく知れたと思います。それに地域の人のかかわりの深められたし、伝えたいこともできました。この学習で東みよし町のことをよく知れて、好きになったと思います。

弁当作りを通して伝えたいことは「東みよし町にはたくさんの優しい人がいる」ということ。インタビューを何回かしていくうちにその優しさがわかってきました。おむすび作り体験ときも全員優しくかったです。二つ目は「東みよし町ではたくさんの食材があること」です。東みよしの食材探しの旅に行ったときいろんな食材がありました。どれも新鮮でおいしそうでした。じっさいにお弁当作りをしたときに地元の食べ物はおいしいなと思いました。そしてその食べ物を作るためには、田畑が必要です。なのに最近田畑を捨てる人がたくさんいると聞きました。田畑は昔に人が一から作ったものです。だから田畑を捨てることは昔の人たちに失礼だと私は思います。

〔成果〕 アンケートによる評価

地域への愛着に関する質問紙において、22項目中、8項目で有意である結果となった。

領域	有意であった8つの質問項目	平均値	標準偏差	P値
土地への認識	2. この地域の風景や街並みは美しい	0.67	1.28	*(p<.05)
土地への認識	3. この地域の街並みから歴史が感じられる	0.63	1.38	*(p<.05)
土地への認識	6. この地域には、他地域の人に勧められる名物や名産品がある	0.71	1.74	+(.05<p<.10)
土地への認識	7. この地域はテレビや雑誌などでしばしば紹介される	0.88	1.67	*(p<.05)
集団への認識	11. 日頃、地域の人々と一緒に活動する機会が多い	0.67	1.72	+(.05<p<.10)
文化への認識	17. 生活の中に伝統的習慣が生きている	0.79	1.63	*(p<.05)
文化への認識	18. この地域には、伝統的な生活習慣が残っている	1.08	1.47	** (p<.01)
地域への愛着	19. この地域に対して愛着がある	0.63	1.55	+(.05<p<.10)

〔成果〕 児童の感想による評価

単元終了後の児童の感想は次のようであった。

〔地域の土地に対する肯定的な印象〕

- ・東みよし町に以前より関心を持ちました。東みよし町のことをもっと知りたいです。
- ・たくさんの作物を作っていることを知ってほこりに思えたと安心した。
- ・勉強していくうちに、東みよし町には食材が多くあるという気持ちに変わっていった。
- ・東みよし町の食材を使うことで地産地消になる。
- ・東みよし町ではイチゴを一年中作っている。
- ・東みよし町の食材の良さがつまったリーフレットを作りたい。
- ・県外の人にリーフレットを読んでもらえれば、東みよし町のよさを知ってもらえる。等

〔地域の集団に対する肯定的な印象〕

- ・農家の人たちは毎年こんなすごいことをしているんだと知りました。
- ・地域の人はやさしかった。みんなやさしく教えてくれた。
- ・教えてくれる地域の人たちは、いつも笑っていて、ノリがよくておもしろかったし、みんないい人だったので安心してみそ作りができた。
- ・大昔たくさんの人々が協力や助け合いをしたことで、この三庄地区などは守られていると思いました。
- ・町の人たちと関わりをもてたし、町の人のおかげで東みよし町はすごいと思えました。等

〔地域の文化に対する肯定的な印象〕

- ・みそなどは昔の人から今の人へと受けつがれている。
- ・やったことも、想像もしていないみその作り方を体験できた。でもこのようにして受けつがれていくのが分かった。
- ・昔の池が今でも私たちに役立っているのはすごい。
- ・昔は、おいしければなんでもよしと思っていたけど、今では、現地（東みよし町）で作られた食べ物の方が安心できるようになった。
- ・野菜などは、このへんの地域で作った物を使って、地産地消できるようにしている。
- ・学習前は、次から次へと新しいものが進化しているだけだと思っていたけど、今は、昔から受け継がれてきたこともちゃんと今も生かしているんだなと思いました。昔から変わっていないところもあるんだなとあらためてちゃんと思いました。等

質問紙の結果や児童の感想から仮説「教科等の知識や技能を生かして郷土の「人・もの・こと」と関わる課題解決学習を行えば、郷土の知識と共に郷土愛も育まれるだろう。」は、実証されたと考えられる。

〔課題〕

学習指導要領解説「総則編」の付録(P. 204～)に、現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容の一覧表が記載されている。本研究では、「食に関する教育」「心身の健康の保持増進に関する教育」「郷土や地域に関する教育」の一覧表を参考にし、関連する学習内容に目星を付け

ることができた。単元構想の初期の段階で役に立つ資料であった。「健康・安全・食に関する力」は、学習指導要領解説「総則編」の第3章教育課程の編成及び実施（P.52）に1箇所記載があるのみで、その具体的な内容については記載されていない。本研究では、この「健康・安全・食に関する力」とは、どのような力であるのかについて、単元開始前に明確に決めることができなかった。「体にやさしい 東みよし町ならではの おにぎり弁当をつくろう」を児童と取り組みながらその力を次のように具体的にイメージできるようになったのが実際であった。

知識技能・思考判断

- ・五大栄養素の知識を基に、みそ汁に入れる具や栄養バランスを考えた弁当のメニューを考える力
- ・地域で採れる旬の食材を知り、それらを生かして、栄養バランスを考えた料理を作ることができる力
- ・日本の低食料自給率を知ることで、町の豊かな農的環境に気づき、食料の大切さに気付く力

学びに向かう力・人間性

- ・先人が残してくれた農業インフラや、伝統的な食文化の恩恵を感じ、気付きを他の人に伝える力

単元において、児童に身に付けさせたい最終的な力を単元開始前に具体的に想定しておくことが課題である。

7 今後の展望

五十嵐（2006）の「地域でしかできない学習」は、教科等横断的な課題設定にすることで、時間の制約や下支えする知識の欠落の課題が解決され、地域の知識と共に郷土愛も育まれることが分かった。今後は、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として例示されている力の中で、防災に関する力や主権者に関する力、地域創生に関する力についても地域の方々の協力を得ながら、地域でしかできない学習を行っていきたい。

引用文献

・Hidalgo, C. Hernandez:, B. (2001) :Place attachment: Conceptual and empirical questions, Journal of Environmental Psychology, 21, pp.273-281

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 総則編』東洋館出版社（2017）
- ・五十嵐一浩『郷土愛を育てる地域学習の工夫』（2006）
- ・原田茜『愛郷心教育の実践についての考察』（2011）
- ・引地博之・青木俊明『地域に対する愛着形成の心理過程の検討』（2005）
- ・岡田夏美・矢守克也『学校防災教育を規定する4つのフレームワークに関する評価』（2019）
- ・大野久『アイデンティティ概念再考』（2020）
- ・大谷華『場所と個人の情緒的なつながり』（2013）

地域の協力者

- ・CSの皆様 ・三加茂産直市場様 ・オアシス農産物直売所様 ・谷藤ファーム様 ・マルナカ様
- ・農家民宿岩野屋様 ・三加茂生活改善グループ様

研究主題

豊かな心で、自他のよさや価値に気付き、よりよく生きようとする児童の育成 ～特別活動と道徳科の響き合いを目指した西井川小メソッドによる道徳教育の推進～

西井川小学校 教諭 福井 裕佳

1 はじめに

2015（平成27）年に学校教育法施行規則が改正され、小学校における「特別の教科 道徳」（以下、道徳科という）の全面実施から早くも6年が過ぎようとしている。この期間、学校現場や道徳教育の研究の分野では、「考え、議論する道徳」への転換をスローガンに、道徳授業の改善や質の高い指導法に関する授業研究に重きがおかれてきた。そして、道徳科の授業実践をさらに充実させるためには、他教科等の他の教育活動との関連を意識した道徳科授業や学校での道徳教育について取り組んでいく必要がある。また、それは道徳科の要としての役割についても考える機会になるのではないかと考える。そこで、特別活動と道徳科を効果的に関連させた指導について研究することは、意義のあるものだと考えた。

2 研究の目的

本校の教育目標は、「確かな学力と豊かな心を備えた心身共に健康な児童の育成」であり、道徳教育の努力目標として、「豊かな体験活動を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成を図る」を掲げている。特別活動と道徳科の響き合いの中で、豊かな心を育成することは、本校教育活動の具現化につながると考えた。

2年生の児童は、明るく素直で、困っている友だちがいると声をかけ合いながら一緒に乗り越えようとする優しい姿が見られる。また、様々なことに一生懸命取り組むことができる。しかし、自分の意見や考えを发表或し、人前で何かをしたりする時には、消極的になってしまうことが多い。自分についてのアンケートをとったところ、「あなたは自分のことが好きですか」という質問に対して、否定的な回答をした児童が約40%程度いた。その中には、学級でも活発で明るく過ごしている児童もおり、少なからずショックを受けた。

そこで、特別活動の実践や道徳科の授業の中で、自らのよさや価値に気付かせ、それだけでなく、周りの人のよさにも気付かせたいと考えた。そしてそれは、道徳教育の「自立した人間として他者と共によりよく生きる」という目標にも近づき、本校の児童の課題の解決にもつながると考える。

3 研究の方法と実践

（1）研究主題・副主題の基本的な考え方

①「豊かな心」とは

豊かな感性や正しい判断力と実践力をもち、心を働かせながら、周りの人々と温かい共感的な人間関係を築こうとする力。

②「自他のよさや価値に気付き、よりよく生きる」とは

認め合いや支え合いがある人間関係の中で、自他のよさや価値に気づき、自分の可能性を信じて、生き方を主体的に考えようとする姿。

③「特別活動と道徳科の響き合い」とは

特別活動でふれた道徳的価値を、道徳科の中で自分の行動や心を見つめる一つの視点として生かし

たり、道徳科で育成された道徳性を、特別活動や学校生活の中で発揮したりすること。

④「西井川小メソッド」とは

学校の教育活動全体を通じて、本校教員が身に付けて欲しい4つの資質・能力を設定し、道徳教育の充実を図り、その実践を道徳教育普及のためにわかりやすく一般化すること。

(2) 研究の方法

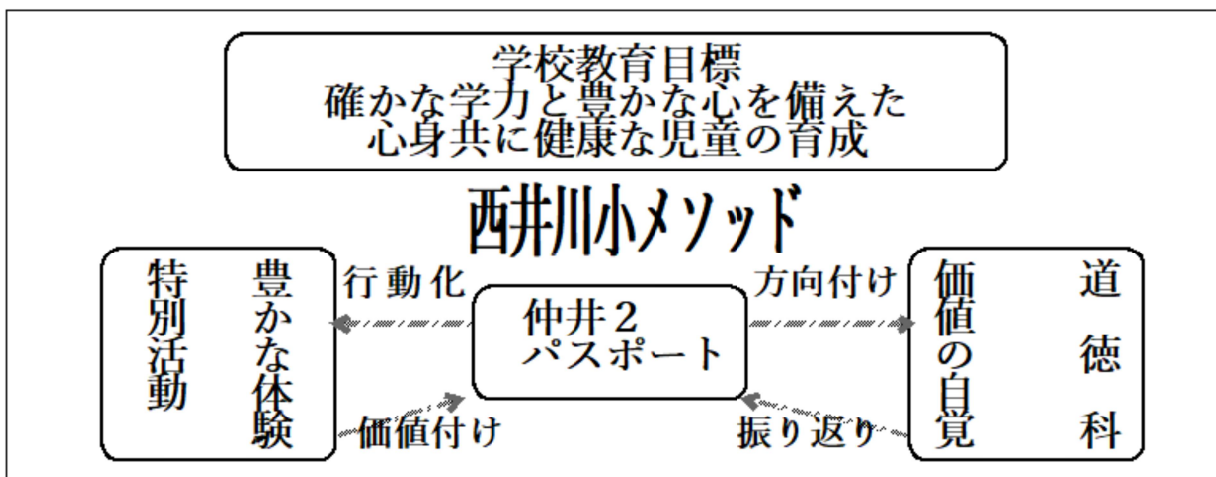
① 研究の仮説

本校教員が身に付けて欲しい4つの資質・能力（以後、「4つの力」と略する）を意識する自己評価ツール「仲井²パスポート（なかいいパスポート）」を開発し、道徳的価値を自覚する自己評価を繰り返し行えば、児童は自己の成長を実感し、研究主題に迫ることができるだろう。

② 研究の視点

- (i) 教員と児童の共通の評価ツールとしての「4つの力」を設定。
- (ii) 4つの力から分類・整理する「仲井²パスポート」の開発。
- (iii) 児童が自らの成長を実感するために「仲井²パスポート」を生かした授業の実践。
- (iv) 保護者・地域への「4つの力」で価値付けた児童の成長の積極的な発信。

③ 研究の構想



[図1 研究の構想図]

(3) 研究の実践

① 教員と児童の共通の評価ツールとしての「4つの力」を設定

全教員で、本校の児童の実態から身に付けさせたい力を付箋に書き出し、KJ法で整理した。KJ法で整理した結果、大見出しになった「感謝する心」「協力する力」「思いやりの心」「人を大切にできる力」を児童に身に付けさせたい資質・能力とした。全教員で本年度は、この4つの資質・能力を育成しようと共通理解することができた。

② 4つの力から分類・整理する「仲井²パスポート」の開発

4つの力を児童にわかりやすいように表現を変えた。それが『「ありがとう」と言いたいこと』『協力できたこと』『優しくできたこと』『人を大切にするために学んだこと』である。それを図2のようにA4用紙のタイトルにした。それが「仲井²パスポート」である。帰りの学活で1日をふりかえり、『「ありがとう」と言いたいこと』があれば、そのページに書いていくのである。つまり、1日で学

んだことを4つの力の視点から見直すことにより、自然に4つの力を児童は意識化するのである。児童が実際に作成したものが写真1になる。



図2 「仲井²パスポート」

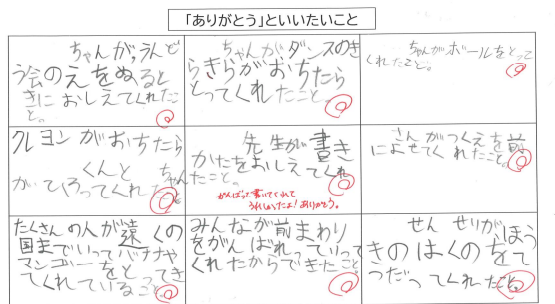


写真1 「児童の仲井²パスポート」

③ 道徳科と特別活動を響き合わせる「仲井²パスポート」

[学級活動]「キラキラとかがやく人を見つけよう」

「仲井²パスポート」の『「ありがとう」を言いたいこと』から、友だちのよさを見つける。そこから、友だちのよさを伝える「ハッピーレター」を作成する。

[道徳科]

主題名：自分っていいな[D-17 生命の尊さ]

教材名：「ぼく」（新しいどうとく 東京書籍）

ねらい：自分のよさに気づき、自分がかげがえのない存在であることを理解し、自分を大切にしようとする態度を育てる。



写真2 「授業の様子」

道徳科から学級活動へ

教材「ぼく」は、主人公の「ぼく」が自分の好きなものを教えてあげようという語りかけから始まる。「ぼく」の好きなものは家族やペット、友だちなど様々であるが、一番好きなものは「ぼく」である。それは、「ぼく」がいなければ、何も好きになれない。「ぼく」がいるからいろいろな体験ができる。「ぼく」がいるから将来の夢を語るができる。「ぼく」が一番好きなのは「ぼく」という意味を話し合わせた。「ぼくは楽しいんじゃないかな」「生きてるからじゃないかな」といった意見が出てきた。話し合いの後、「生きているってどんなことなのかな。生きていると感じるときはどんなときか書いてみよう」と児童に「仲井²パスポート」の「人を大切にするために学んだこと」のページに書かせた。

[学級活動]自分に「きらりしょう」をおくろう。

児童は「仲井²パスポート」や「ハッピーレター」を参考にして自分のよいところを考えた。そして、自分のよいところを1つ選び自分への賞状を作った。完成した賞状を友だちや先生に伝えた。この学習を通して、自分も友だちも大切にしようとする気持ちが高まっていった。また、教室に温かい空気が広がってきたように感じた。

④学級から学校全体に積極的な発信

全校での取組として、「仲井²パスポート」の中から1つ、学校みんなに伝えたいことを選んで「心の花カード」に書く活動を始めた。それを人権集会で、他の学年の児童たちと紹介し合った。それだけでなく、「心の花カード」を児童に見えるところに掲示した。「心の花カード」が増えていくとともに、花が大きくなり、大きくなるにつれ虹色の花が咲くように工夫した。それが写真3である。児童は、他の学年の児童のカードを熱心に読み、「〇〇って書いた子がいたよ、私も書きたいな」と

伝えてくる児童もいた。

『心の花カード』を書くことは大切だと思う」という質問項目に対して、全員の児童が「あてはまる」と回答した。

⑤保護者への発信

保護者へ発信する校長室だよりでも、「仲井²パスポート」での学びを通して児童が成長して欲しい願いを図3のように発信している。また、学級通信では、児童の「仲井²パスポート」の内容なども紹介している。



写真3 「心の花カード」

4 結果と考察

(1) 児童のふりかえりから

「2学きをふりかえって」という題で書かせると、「ぼくが2学きにできるようになったことは、ありがとうと言うことです。ありがとうがいいことばだと知ったから言えるようになりました」や「わたしは2学き、なかいいパスポートにいっぱい書けるようになりました。ありがとうと言えたり、きょう力したりできるようになったからです」と書いた児童たちがいた。2年生の児童たちが、1番伝えたいことに、「仲井²パスポート」のことを書き、自己評価活動の大切さを理解していることは特筆すべき点だと感じた。

わたしは、西井川小学校のみんなに、この高校生のように「ささえてくれている人にきづき、かんしゃのできるおとな」になってほしいと思い、『なかいいパスポート』で、1日をふりかえって、自分を助けてくれた人やささえてくれている人はいなかったか考え、かんしゃする気持ちをもって欲しいとおもいます。そして、おとなにむかって、一步一步、せいちょうしていってください。

図3 「校長室だより (一部抜粋)」

(2) 質問紙調査から

次に、質問紙調査から検討してみることにした。4件法で行い、平均値の高い質問を表1に示す。

表1 児童の質問調査 (平均値の高い質問項目)

質問項目	平均値
○わたしは、まわりのひとをたすけたり、やさしくしたいとおもっている	4. 0
○わたしを、たいせつにおもってくれている、ひとたちがいる	3. 9
○うまくいかないことは、まわりやがっこうがわるいのではないので、じぶんがせいちようすることがたいせつだ。	3. 9
○わたしは、まわりのひとのよるこぶかおが、みたいとおもう。	3. 8
○わたしは、4がつから「ありがとう」とかんしゃすることがふえたとおもう。	3. 8
○ダンスやがくしゅうはっぴょうかい、べんきょう、うんどうなど、やりとげることができたとおもう。	3. 8
○がっこうでわたしは、しあわせです。	3. 8

上の表から、「仲井²パスポート」でふりかえることにより、自分を支えてくれている人の存在に気づき、自分とまわりを大切にし、認め合い、助け合う態度が育っているのではないかと感じた。また、自己評価活動を行うことにより、自分を認めることができ、自尊感情も高まっていると感じる。

(3) 自由記述から

次に児童に、「仲井²パスポート」について自由記述で書かせた。その結果が次である。この中に、

自己評価活動を行うことにより、自己の成長を認め、自ら課題を見つけ、課題解決に行動できている様子がわかる。予想以上の成果を挙げることができ、驚いている。

- 「ありがとう」と言うことが増えたり、やさしくできるようになったりした。
- みんながきもちよくありがとうとか言ってくれるのでしあわせなきもちになりました。
- まわりの友だちがやさしくしてくれたとすることができた。
- 友だちが、たすけあっていることにきづけるようになった。
- みんながきょうりょくしていると思うようになった。
- ふりかえることで、これからたいせつにしていこうと思うことがわかる。
- 自分が書いてあることをよんだら、自分がせいちょうしていると思えた。また見たいなと思うようになった。つぎになにをしたらいいか自分で考えてうごけるようになった。
- ふりかえりができるようになった。
- なかいいパスポートの「ありがとうといたいこと」にいっぱい書けるようになった。
- いろいろなことにがんばれるようになってきた。
- いやなことがあっても、がんばれるようになってきた。

(4) 相関関係について考察

「仲井²パスポート」が、どのような影響を及ぼしたか検証するために、CORREL関数を使って相関関係を調べることにした。CORREL関数は2つの配列の関連性の強さを求めることができる。相関係数が0.7以上だと強い正の相関を示し、0.4以上0.7未満だと正の相関があるとみなし、正の相関があった質問項目を表2に示す。

表2 児童の質問調査（平均値の高い質問項目）

質 問 項 目	相 関 係 数
強い正の相関	1. 0 0
○わたしを、たいせつにおもってくれている、ひとたちがいる ○いま、わたしは、しあわせです。	0. 8 0
正の相関	0. 5 0
○わたしは、まわりの友だちとうまくやっている。	

5 おわりに

児童に身に付けて欲しい4つの力を意識する自己評価ツール「仲井²パスポート」を開発し、実践することで、自己の成長を実感し、自他のよさや価値に気づき、よりよく生きようとする態度が育成されてきたのではないかと感じる。それだけでなく、自己の課題に自ら気づき、自ら改善していこうとする自己調整学習にもつながっていく可能性を感じる。また、特別活動と道徳科を共鳴させるようなツールとしての可能性も感じることもできた。

本実践研究は、当初考えていたよりも、成果を挙げることができた。しかし、これで十分というものではなく、自己評価が単独で存在しており、それらを構造化し、メタ認知的にとらえるところまではいたっていない。小学2年生の発達段階を踏まえると、そこまで求めるのは難しいかもしれないが、「仲井²パスポート」を活用した自己調整学習の可能性と道徳科と特別活動の連関についてもさらに研究していきたいと考えている。

<引用文献・参考文献>

- 村川雅弘・三橋和博編著(2015)『「知の総合化ノート」で具体化する21世紀型能力』学事出版
- 熊本市立銭塘小学校(2018)『豊かな心で、自信をもって生き生きと活動する子供の育成』上廣倫理財団「第26回上廣道徳教育賞受賞論文集」

伝統と革新

～ふるさと東祖谷を GIGA で発信しよう！～

東祖谷中学校 教諭 久保 拓史

1 はじめに

本校は全校生徒5名の小規模校である。生徒たちは素直で明るく、学習、休み時間、清掃活動などにおいて学年関係なく、全校生徒で関わり合いながら仲良く過ごしている。しかし、少人数であるがゆえに人間関係の変化に乏しい課題がある。15歳になり、地元東祖谷から離れ高校へ進学する際に、具体的な職業観や進路を見いだせずにいる課題もある。また、地域としても人口減少、高齢化が深刻な問題となっている。

2 研究の目的

本年度より、「地元の魅力を発信しよう！」という目標のもと、地元の調べ学習をスライドにまとめて発表をしたり、魅力発信のために必要なことをアドバイスしてくれる民間企業の方々と連携したりするなかでキャリア学習を深めるなどの活動を始めた。

3 研究の方法と実践

(1) スライドで表現する、地元の魅力

(4月25日)

まずは、FigJam を活用し、東祖谷にどのような魅力があるのかについてブレインストーミングをした後に、Google スライドを活用して、地元の魅力を発信するためのスライド作成に取りかかった(写真1)。Google スライドを活用した表現については、小学生の時から慣れ親しんできているので、操作についても効率よく行うことができた。写真を挿入したり、Google Earth を活用したり、後述の3校合同リモート会に向けて、それぞれの学校と東祖谷中学校の直線距離を図示するなど、わかりやすいスライドづくりのコツがつかめている(写真2)。

(最後のページの二次元コードからスライドをご覧ください。)



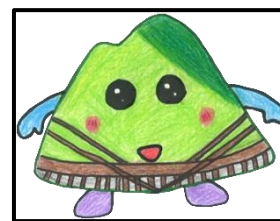
写真1 FigJam での話し合いの様子



写真2 スライドの一部
(GoogleEarth を活用している。)

(2) 東祖谷小中学校マスコットキャラクター作成 (5月下旬)

東祖谷の魅力を発信するにあたって、みんなに愛されるマスコットキャラクターを作ってはどうかという意見がでた。そこで、生徒5名がそれぞれ案を出し、東祖谷小学生に Google forms でアンケートを取り、ひーちゃんが誕生した (画像1)。プロフィールも作成し、9月に行われた文化祭では、地域の方々へもお披露目した。



画像1 ひーちゃん

また、11月下旬には、ひーちゃんの歌も生成AIのSunoを活用し作成された。1月以降には、ひーちゃんキーホルダーを作成し、販売することでさらにひーちゃんを広げていく予定である。(最後のページの二次元コードからプロフィールと歌をご視聴ください。)

(3) リモートで他校の生徒へ地元の紹介

(6月18日)

木頭中学校と高知県の大栃中学校の3校でリモートプレゼンテーションを行った (写真3)。交流は初めてであり、お互いに緊張した雰囲気の中でのスタートであったが、地元や学校の紹介が始まると、知らなかった世界を知ることになり、生徒たちの表情はとても輝いていた。



写真3 他校との交流の様子

(4) 民間企業と連携して、プレゼンテーションの技術を磨く (6月25日)

民間企業の方々とリモート接続をし、それぞれの企業について紹介していただきながら、魅力を発信するためにどのようなことに気をつけたらいいのか、スライドのデザインで工夫したら良いところなどを説明していただいた (写真4)。

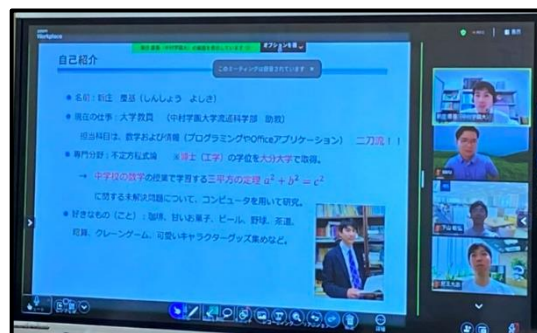


写真4 キャリア学習の様子

(5) 作成した動画を学校ホームページに掲載する

スライドを作成したが、生徒たちの日常における情報収集の方法から分析し、動画があったほうが興味を持ってもらえる人がふえるのではないかという意見がでた。そこで、動画作りが始まった。東祖谷に行きたい! と思ってもらえる動画にするためには、どうしたらいいか、考えながら、Canvaというアプリケーションを活用して、動画の編集を始めた。はじめて操作するアプリケーションなので、慣れていない・わからない作業も多く、困難を極める作業もあったが、無事に完成し、公開へ至る。(動画は、一番最後のページの二次元コードからご覧ください。)

(6) 今回の取組をまとめたポータルサイトを学校ホームページに紐付ける

今回の活動を通し、スライドやインタビュー動画など様々な成果物ができた。これらが一覧できる場所かつ、生徒たちが自分たちで編集し、これから先の代の中学生にも引き継いでいき

やすいように、Google サイトを活用して学校ホームページに紐付けた。学校ホームページでは、日常生活の投稿の中に埋もれてしまう可能性もあったため、生徒たちが作成したものがのこせるサイト、これからの中学生たちに引き継いで更新していつてもらえるようにとあえてGoogle サイトでホームページを作成し、学校ホームページ内でリンクを連携した。

(ホームページは、一番最後のページの二次元コードもしくは、東祖谷小中学校ホームページからご覧ください。)

4 結果と省察

(1) 生徒のアンケートより

Q1.プロジェクトをやってみてよかったですか？

全員がよかったと答えていた。

Q2.その理由を教えてください。

・たくさんのプロジェクトを通してタブレットの使い方や情報を発信する手段を知ることができ、日常生活で使えるアプリケーションが増えたからです。

・自分たちが住んでいる東祖谷の事について発信したため、世界中の人に東祖谷の良さについて知ってもらえるから。

・東祖谷にいた僕達も改めて東祖谷の良さを知る機会になりました。また、たくさんの学校との交流も含め発表する力などもついたのでとてもよかったなと思います。本当に達成感を感じるものばかりで、家の人にも早く見せたいなと思いました。

・初めてホームページを作ってみて、将来ホームページを作るときの参考になると思ったから。

・自分が知らなかったプロジェクトをしたり、みんなで考えてより良い発表やプロジェクトにしようと考えたりして、みんなとの絆も深めあえたと思ったからです。

Q3.今回のプロジェクトを通して、自分が感じたことを教えてください。

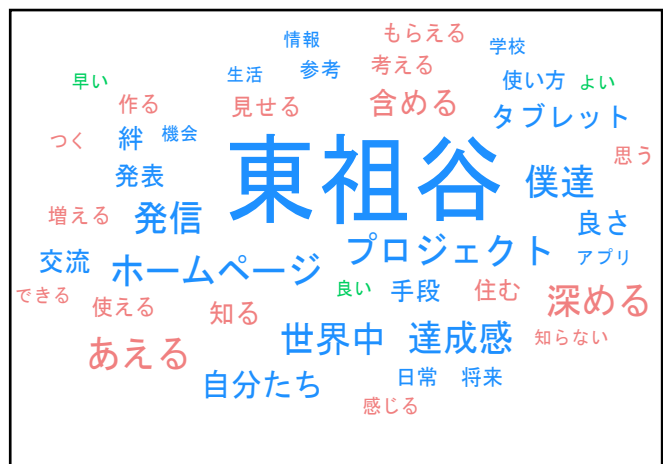
・人前で発表することが苦手でしたが、他校や地域の方々に情報を発信したことで、私自身とても成長できたと感じました。

・自分たちが住んでいる地域の事を自分たちの力で、世界中の人に発信できたことは、良いことだなと思いました。

・東祖谷が本当にいいところだなと感じた反面、課題もたくさんあるなと感じました。今のままでは厳しいこともたくさんあり、それについて詳しく話し合いをたくさんの人とできてすごくよかったです。

・今回は、分担しながらやったけど、これを一人で作るとなるととても大変だなと思いました。

・今回のプロジェクトは、初めてのことで戸惑ったこともあったけど、先輩方や先生方の優しい声かけやサポートのおかげでこのプロジェクトを通して自分が成長できたと感じました。



画像2 Q2の回答をテキストマイニング化したもの

Q4.一番心に残ったプロジェクトとその理由を教えてください。

【オンライン交流】

- ・初めて他校とのオンライン交流で東祖谷の魅力や他校の取り組みの意見交換ができて楽しかったからです。
- ・初めてのリモート交流で、各学校でしている取り組みや、その学校の良さ、課題を知ることができて、この学校にも活かそうなものを見つけることができたからです。

【文化祭での発表】

- ・東祖谷の魅力について初めてスライドを作って、文化祭や他校の交流で東祖谷の魅力について発信することができたから。

【ホームページ作り】

- ・どれも本当に一生懸命頑張ったんですが、ホームページがとくにいい感じにできたなと思いました。東祖谷のいいところをたくさん書くことができて本当によかったです。こうやって地元の良さを世界中の人に発信できることがとてもうれしいです。

【キャリア学習】

- ・6人の先生方の、それぞれの仕事や人生について、自分のこれからの将来に参考になることもあったから。

(2) アンケートの分析

①アプリケーションの判断力と創意工夫

Web上でのアウトプットを通して、様々なアプリケーションを活用し、どの状況においてどのアプリケーションを活用したらよいかの判断力が身についた。最後のホームページづくりにおいては、ヘッダー画像をCanvaで作成するなど、今まで活用してきたアプリケーションの強みを生かしてよりよい作品を作ろうとする様子も見られた。自分たちで相談しながら作成するものと、生成AIをうまく活用し、限られた時間の中で効率化しながら作品の質を最大限に高めていこうとする取捨選択や情報活用能力についても十分な力が備わったと感じている。

②発表するスキルの向上

キャリア学習や大栃・木頭中学校との交流、文化祭などたくさんの人に対して様々な機会での発表を行った。今まで人前で発表することが苦手だと認識していた生徒が、このプロジェクトを通して、成長できたと振り返っていた。場数を踏むだけでなく、キャリア学習においては、様々な視点からA4用紙20枚にわたる、スライドのデザインについてのアドバイスもいただき、より実践的な能力向上の機会になった。

③協働作業を通じた可能性の伸長

仲間と協力しながら作業を行うことが苦手な生徒が、「一人では達成することが難しく、複数人で今回取り組んだからこそ達成できた」とプロジェクトを振り返っており、学習やPCスキルの向上だけでなく、仲間と協働して課題を解決していくことの大切さを学ぶことができていた。一度発表して振り返って終わりの活動ではなく、発表したものをさらによく何度も作り変えるという長いスパンで一つの課題に着手できた経験は、彼らのこれからの社会生活において大きな財産になったと確信している。

(3) 今後の課題

東祖谷には、歴史的な建造物や逸話がたくさんある。しかし、それらを実際に見たり肌で感じたりする機会は、生徒にとって多くはない。「実際に見たことがある」生徒もいるが、「見たことはないが聞いたことはある」という生徒が徐々に増えてきている。生徒たちからは、せっかく東祖谷の魅力についてここまで掘り下げてやってきたので、引き続き調べていきたい、という意見があった。来年度以降は、実際に地域の伝統文化や歴史的建造物を訪問する、地域学習の時間を盛り込み、実際に肌で感じる東祖谷の魅力についてホームページをブラッシュアップしていくつもりである。このように、先輩たちが作り上げてきたものにさらに付け足し付け足してよりよくしていくことができるのも、デジタル端末の魅力ではないかと感じる。

ホームページを作成してから、本原稿完成までの期間が短く、アクセス数の爆発的な伸びはまだ感じていないが、広報活動を続け、より多くの人にホームページを見ていただき、東祖谷の魅力を知ってもらう所存である。

また、自分たちができる解決策に取り組んでいきたい、という意見も生徒から上がったので今回のプロジェクトから見える東祖谷の課題について分類し、その中で自分たちができる解決策はどのようなものがあるかについても考えさせていきたい。

5 おわりに

数年前からタブレットを活用した学習に力を注いできた東祖谷中学校の集大成とも言える今回の取組では、最新の技術やアプリケーションを活用しながらも、地元である東祖谷の魅力を発信するという使い方ができたのではないかと考える。生徒たちには、「自分たちが進学して地元に戻ったとき、東祖谷は存続できているのであろうか。」という不安もある。課題を漠然ととらえるのではなく、プロジェクトとして長いスパンをかけてじっくりと取り組んだ経験を通し、これから出会う様々な困難や不安に対してもすぐにあきらめずじっくりと取り組めば、解決の糸口が見えてくると気づけたきっかけになったと考える。今回の活動には、東祖谷の地元の方々や民間企業の方々をはじめとした様々な人々のつながりや支え無くしては実現しなかったところがたくさんある。感謝の気持ちを忘れることなく、恩返し of 気持ちも込めて、引き続き、東祖谷を愛する人を増やしていきたい。

生徒が作成した作品 二次元コード



令和6年度 教育研修・研究事業報告

1 研究主題

令和6年度 「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く『人財』を育む教育活動」

令和7年度 「VUCA時代を乗り越え、心豊かにたくましく生き抜く『人財』の育成」

2 事業

(1) 調査研究

- ア 教育課程の研究
- イ 複式の特性を生かした学習指導方法の研究
- ウ 情報教育についての研究
- エ 地域の教育力を生かした教育活動の研究
- オ 生徒指導にかかわる諸問題の調査研究
- カ 各種研究会への参加と研究物の収集
- キ 購入図書・DVD等の紹介

(2) 各種研究会及び研修会の開催・共催

- ア 教育研究推進協議会・教育研究所協力委員会
5月31日（金）
- イ 情報教育研修会（小教研情報教育部会と共催）
6月7日（金） 第54回徳島県小学校放送・情報教育研究大会（昼間小学校）
8月1日（木） 夏期研修会（愛媛県民文化会館）
10月16日（水） コンピュータ作品審査等（三好教育センター）
- ウ 複式教育研修会（小教研へき地・複式部会と共催）
- エ 人権教育研究会（三好郡市学校人権教育研究大会後援）
11月8日（金） 就学前部会（池田幼稚園）
11月8日（金） 小学校部会（池田小学校）
- オ 新任管理職研修 参加者13名
5月13日（月） 講師 伊丹 賢治（三好市教育委員会教育長）
柏尾 美恵（加茂小学校事務室長）
後藤田佳孝（三野中学校事務長）
- カ 若手教職員研修会（三セカフェ）
5月～2月 計8講座 参加者27名
講師 濱田 雅子（鳴門教育大学就職支援アドバイザー）
石井 一次（鳴門教育大学嘱託講師）
齋藤 剛（足代小学校教諭）
- キ 学校運営研修会（教頭・中堅教員研修会） 参加者19名
6月12日（水） 講義1 鶴田真由美（前加茂小学校長）
高岡 和恵（三好教育研究所長）
6月18日（火） 講義2 濱田 雅子（鳴門教育大学就職支援アドバイザー）
6月28日（金） 講義3 片山 富造（高越小学校長）

※オ～キ「三好教育振興協議会」との連携による事業

(3) 研究委嘱、研究協力校（園）への指導・助成

ア 研究発表校

櫛生小学校

イ 研究協力校（令和7年度発表校）

芝生小学校・三好教育研究所

ウ 委嘱研究員

幼稚園 三好市教育委員会 中川 瑛子 主任教諭

小学校 1区・4区 三庄小学校 中妻 道人 教諭

2区・3区 西井川小学校 福井 裕佳 教諭

中学校 4区 東祖谷中学校 久保 拓史 教諭

(4) 三好市適応指導教室（そよかぜ学級）の学習支援

(5) 各研究会、団体等との協力

ア 三好教育会

イ 三好郡・市小学校教育研究会、三好郡・市中学校教育研究会

ウ 三好郡・市学校人権教育研究協議会

エ 三好郡・市各幼稚園・小学校・中学校

オ 中・四国教育研究所連盟

カ その他教育関係諸機関

3 研究成果の発表及びその普及

(1) 三好教育研究発表会

日時 令和6年8月22日（木） 13:25～16:40

会場 三好市池田総合体育館

○研究発表

・櫛生小学校 研究主題

ふるさと西祖谷に夢や誇りをもち、未来の創り手となる子どもの育成

～へき地・複式・小規模校の特性を生かした

学校・学級経営の深化・充実をめざして～

発表者 井内 康之 教頭

・三好教育研究所 研究主題

主体的に運動する子どもの育成

～「防災体力」を意識した体力づくりを通して～

発表者 松本 美穂 研究員

○講演

演題 ペップトークで自分と子供達の未来を輝かせよう

講師 湯佐 弘子 さん（マナーセンス代表）

(2) 研究紀要（第65集）の発行と研究所報（第105号）の発行

各学校・園、各研究機関に送付

(3) ホームページ等による広報活動

(4) 研究員による研究成果のまとめと報告（県教育委員会へ提出）

(5) 三好教育振興協議会の事務

各種調査・整理、会議の運営など

歴代委嘱研究員一覧(平成元年～)

幼稚園・小学校

年度	幼稚園		小学校			
	幼稚園	小学校1区	小学校2区	小学校3区	小学校4区	小学校5区
H1	国見マチ子(絵堂幼)	藤本政義(王地小)	天竹勉(昼間小)	吉岡弘恵(池田小)	森勝正(河内小)	森本義博(櫛生小)
	斎藤光子(三野幼)	坂野町子(三庄小)	前川順子(辻小)	久保徹(箸蔵小)	小笠健二(大野小)	和田初枝(落合小)
2	国見マチ子(絵堂幼)	藤本政義(王地小)	天竹勉(昼間小)	吉岡弘恵(池田小)	森勝正(河内小)	森本義博(櫛生小)
	斎藤光子(三野幼)	坂野町子(三庄小)	前川順子(辻小)	久保徹(箸蔵小)	小笠健二(大野小)	和田初枝(落合小)
3	山口悦子(増川幼)	小笠松美(王地小)	藤野圭一(足代小)	武内隆史(出合小)	竹野啓治(大和小)	細川文男(櫛生小)
	横田嘉代子(昼間幼)	大瀧和彦(加茂小)	為実敬子(西井川小)	真鍋宏実(馬場小)	篠原聡(下名小)	松村直也(和田小)
4	佐々木隆子(東山幼)	大瀧和彦(加茂小)	為実敬子(西井川小)	武内隆史(出合小)	竹野啓治(大和小)	松村直也(和田小)
	井上淳子(足代幼)	小笠松美(王地小)	藤野圭一(足代小)	真鍋宏実(馬場小)	篠原聡(下名小)	細川文男(櫛生小)
5	岡久尚子(白地幼)	辻宏明(芝生小)	中川系子(足代小)	坂本武彦(白地小)	田中敬子(上名小)	谷恒二(吾橋小)
	矢野聡子(出合幼)	田岡茂樹(加茂小)	齋藤孝(西井川小)	伊丹賢治(三縄小)	志磨昭子(大和小)	大塚一志(栃之瀬小)
6	岡久尚子(白地幼)	辻宏明(芝生小)	中川系子(足代小)	坂本武彦(白地小)	志磨昭子(大和小)	大瀧和彦(吾橋小)
	矢野聡子(出合幼)	田岡茂樹(加茂小)	齋藤孝(西井川小)	伊丹賢治(三縄小)	田中敬子(上名小)	大塚一志(栃之瀬小)
7	大久保珠美(池田幼)	松田徳子(王地小)	真鍋宏実(昼間小)	中川法子(池田小)	井後辰哉(政友小)	濱口久弥(吾橋小)
	國金砂恵子(野呂内幼)	中川斉史(三庄小)	土井清子(井内小)	川人成子(三縄小)	峯川郁代(山城小)	森本誠司(落合小)
8	國金砂恵子(川崎幼)	松田徳子(王地小)	真鍋宏実(昼間小)	中川法子(池田小)	井後辰哉(政友小)	濱口久弥(吾橋小)
	大久保珠美(池田幼)	中川斉史(三庄小)	土井清子(井内小)	川人成子(三縄小)	峯川郁代(山城小)	森本誠司(落合小)
9	岡尾千恵(下名幼)	原敏二(三庄小)	中川貴史(昼間小)	篠原晃代(馬路小)	小笠原誠(平野小)	徳善之浩(名頃小)
10	木村恵美子(西岡幼)	野町孝英(芝生小)	石井文子(辻小)	島田晴代(野呂内小)	篠原義正(河内小)	岩崎順子(善徳小)
11	三木香代(西庄幼)	森北直樹(加茂小)	中村瑞穂(足代小)	山下史記(佐野小)	河野通之(大野小)	向井ひろみ(菅生小)
12	渡辺千枝(三野幼)	平田公彦(太刀野山小)	小角昌美(西井川小)	三好美智代(西山小)	谷口政代(下名小)	品川知美(櫛生小)
13	岡本久美(西井川幼)	三橋洋子(西庄小)	今川仁史(東山小)	生藤元(箸蔵小)	三橋泰(落合小)	
14	大西恒子(井内幼)	喜多とよみ(王地小)	細谷加代子(井内小)	近藤直美(池田小)	瀧下光子(西宇小)	
15	山中あけみ(箸蔵幼)	樋口隆則(絵堂小)	加藤公夫(昼間小)	近藤明美(三縄小)	松浦理恵(善徳小)	
16	新居利枝(馬路幼)	松代容子(芝生小)	福田ミカ(辻小)	松下寛興(白地小)	井上清隆(栃之瀬小)	
17	古井智恵子(善徳幼)	武田淳子(三庄小)	佐藤仁美(足代小)	向井ひろみ(馬路小)	山中祐二(大野小)	
18	谷本紀子(大野幼)	平尾佐知子(加茂小)	北川ひとみ(王地小)	渡邊真弓(川崎小)	岡本悟(櫛生小)	
19	佐藤重美(東山幼)	平野貴志(東山小)	豊田昌弘(西井川小)	木内晃(佐野小)	猪子研司(和田小)	
20	鳥首こずえ(加茂幼)	邊見明美(絵堂小)	井原理恵(芝生小)	宮本真吾(西山小)	河野恵子(山城小)	
21	大西照子(西井川幼)	和田光司(西庄小)	小角昌美(井内小)	中妻稔子(箸蔵小)	森祐大(吾橋小)	
22	釈子育香(井内幼)	森幸子(昼間小)	松本珠実(王地小)	永山睦子(池田小)	清重正俊(栃之瀬小)	
23	城尾春菜(池田幼)	小角聡志(加茂小)	平尾昌彦(辻小)	安藤久子(三縄小)	平岡千佳(政友小)	
24	元木真砂代(池田幼)	近藤博美(三庄小)	園尾淑子(芝生小)	神谷美樹(白地小)	岩崎真人(櫛生小)	
25	石井やよい(昼間幼)	大久保智江(足代小)	中瀧由紀(井内小)	石丸美穂(馬路小)	福田浩司(東祖谷小)	
26	田岡あけみ(三庄幼)	大西三千代(昼間小)	木村栄治(王地小)	瀧本恭代(川崎小)	喜多芳恵(下名小)	
27	真鍋友子(辻幼)	大西勇貴(加茂小)	藤川美香(西井川小)	新藤茂美(箸蔵小)	長岡鷹太(吾橋小)	
28	加藤由美(辻幼)	木村麻紀子(三庄小)	玉木恵子(芝生小)	上浦大輔(池田小)	瀧下光子(政友小)	
29	岡尾千恵(山城幼)	岡田直人(足代小)	岡慎太郎(辻小)	松本美穂(三縄小)	竹内友梨(山城小)	
30	山本真由美(白地幼)	曾我部悦嗣(昼間小)	大西利江子(王地小)	中川法子(白地小)	岩崎順子(櫛生小)	
R1	藤川孝子(足代幼)	鮎川美加(加茂小)	伊丹智子(西井川小)	前田泉季(馬路小)	喜多芳恵(山城小)	
2	宮成典子(加茂幼)	筆本晴香(三庄小)	徳永直(芝生小)	高田寛子(箸蔵小)	中岡加代子(東祖谷小)	
3	佐藤知美(辻幼)	横山万莉菜(足代小)	笹田季生(王地小)	中妻美穂(池田小)	齋藤早織(下名小)	
4	赤堀奏子(池田幼)	逸見香織(昼間小)	住友優香(辻小)	中瀧由紀(三縄小)	養護部会	
5	森本智恵(池田幼)	川人律子(加茂小)	西原依里(芝生小)	竹原朋子(白地小)	川人美保(山城小)	
6	中川瑛子(市教委)	中妻道人(三庄小)	福井裕佳(西井川小)			

歴代委嘱研究員一覧(平成元年～)

中学校

年度	中 学 校				
	中学校1区	中学校2区	中学校3区	中学校4区	中学校5区
H1	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
2	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
3	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	島本富美子(東祖谷中)
4	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	玉木富美子(東祖谷中)
5	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
6	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
7	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)
8	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)
9	三好康彦(三加茂中)	国友博司(井川中)	伊丹尚子(池田一中)	大西恭司(大野中)	鳥本清(西祖谷中)
10	青山貴幸(三野中)	上田美恵(三好中)	坂本浩江(池田中)	田村裕(山城中)	大谷一幸(東祖谷中)
11	平尾治美(三加茂中)	藤本恒幸(井川中)	尾崎真紀(池田一中)	新見哲也(大野中)	大倉俊之(西祖谷中)
12	宮成万寿美(三野中)	川人勝久(三好中)	内田公生(池田中)	白井正道(山城中)	宮成誠樹(東祖谷中)
13	玉木富美子(三加茂中)	川人祐子(井川中)	西岡ひとみ(池田一中)	板東祥子(西祖谷中)	
14	辺見俊二(三野中)	入江宏明(三好中)	川人恵美(池田中)	根津道子(東祖谷中)	
15	坂部公章(三加茂中)	山内幸子(井川中)	高田和枝(池田一中)	大谷一幸(山城中)	
16	村上義昭(三野中)	野田圭祐(三好中)	峰友真弓(池田一中)	安田恵(西祖谷中)	
17	玉木利典(三加茂中)	立花久(井川中)	久保喜昭(池田中)	岡本博一(東祖谷中)	
18	木藤和恵(三好中)	宮浦理恵(三野中)	沖原真紀(西祖谷中)	丸岡美枝(山城中)	
19	藤本智恵(三加茂中)	大石さえ子(井川中)	中川浩幸(池田一中)	ナサーニョ・デネヒー(東祖谷中)	
20	垂水恵子(三好中)	窪田和弘(三野中)			
21			尾嶋麻子(池田中)	山口雄三(山城中)	
22	渡辺仁(三加茂中)	近藤幸(井川中)			
23			常村淳(西祖谷中)	山口義明(東祖谷中)	
24	片山徹(三好中)	小出真理子(三野中)			
25			細川誠治(池田中)	峰友真弓(山城中)	
26	佐藤篤史(三加茂中)	伊藤憲志(井川中)			
27			芳川未弥(西祖谷中)	岡田祐佳(東祖谷中)	
28	石崎雄一(三好中)	石橋洋平(三野中)			
29			平尾昌彦(池田中)	西昭弘(山城中)	
30	天竹雄紀(三加茂中)	三好佐知(井川中)			
R1			谷口真美(西祖谷中)	藤村美咲(東祖谷中)	
2	大田悦彰(三好中)	入交理子(三野中)			
3			徳善咲紀(池田中)	仁尾芳人(山城中)	
4	佐藤真也(三加茂中)	田口智也(井川中)			
5			内田ゆかり(西祖谷中)		
6				久保拓史(東祖谷中)	